



沖縄市立美東中学校での職業人講話

対 馬 一 男

1. はじめに

私は北海道本部会員であるが、現在は沖縄に住んでいる。長年、エンジョイ・サイエンス研究委員会に所属し出前授業を続けてきたが、このたび沖縄でも同様な活動を行ったので報告させていただく。

沖縄市立美東中学校ではキャリア教育の一環として、実社会の中で活躍している職業人を招き、1年生を対象に働くことの意義や目的、喜びや生きがいなどを学ばせている。教育活動もコロナウイルスの影響で厳しい状況にあり、本学年の職場体験が中止になったが、総合的な学習の時間を活用し職業について調べ学習を行い、働くことの大切さについて学んできたようである。

令和3年7月に地域学校協働活動推進員の方から当社にボランティア講師としての依頼があったのでお引き受けすることにしたが、開催日は当初の9月21日からコロナ禍の収束を待ち12月14日に延期された。302名の1年生は予め聴講したい講話の希望を提出し、十数名のグループにまとめられており、講師は2つのグループにそれぞれ30分の講話を行った。筆者は地質調査技術者として参加したが、他に講師として動物園の飼育員や金融機関、建築士などの方々が10名ほど参加されていた。

2. 職業人講話の概要

日時：令和3年12月14日 火曜日

1回目：14：05～14：35

2回目：14：45～15：15

場所：沖縄市立美東中学校

対象：1年生、1回目：19名、2回目：16名

内容：①仕事の内容や必要な資格

②仕事の大切さや心構えなど

③仕事のやりがいや苦勞など

方法：講師を教室に配置し、生徒を入れ替えて2回の講話を行う。1講話時間は30分。

3. 地質調査の仕事～地盤と人々の生活～

自己紹介後に、パワーポイントにより古宇利大橋やイタリアピサ大聖堂の写真を例に地質調査の必要性や重要性を説明した。また、液状化現象については被害写真や動画を見せ、液状化実験ペットボトル「エッキー」を用いて液状化を再現した。

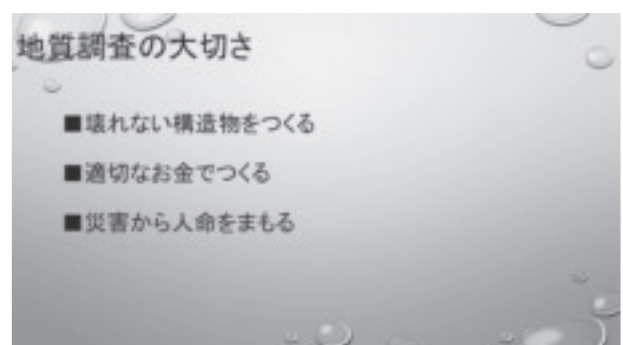


図-1 パワーポイント(1)

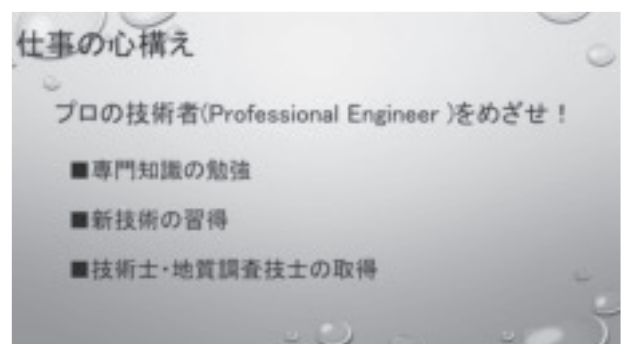


図-2 パワーポイント(2)

仕事の心構えについては、プロの技術者として専門知識の勉強をすることや新技術を習得すること、

技術士や地質調査技士の資格を取得することを伝えた。

「国土も狭く資源もない我が国がなぜ GDP で世界第 3 位の経済大国になれたのか。それは先人が技術力を高めるために切磋琢磨したことに他ならない。だから、我々はこれからも鋭意努力していかなければならない。科学技術立国ニッポンであり続けるために、未来の Professional Engineer を志す若者を待っている。」というメッセージを送り、講話を締めくくった。

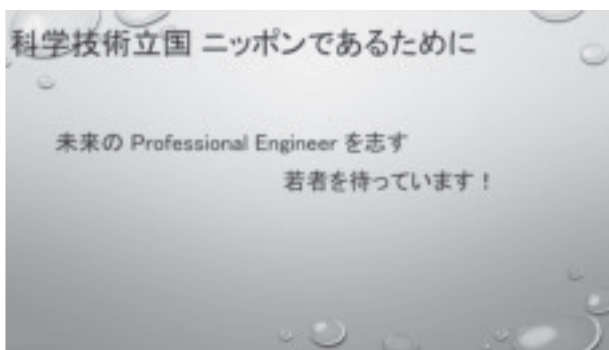


図-3 パワーポイント(3)



写真-1 講話風景

4. 中学生との質疑応答

各グループとも数名の生徒から質問があったが、待遇や労働環境について単刀直入な内容であった。質疑応答の内容を以下に記す。

Q1. 年収はどれくらいか。

A1. 年収は年齢や役職により異なるので一概には言えないが、必要な資格として紹介した技術士を取得すれば、当社において年収は 100 万円アップする。

Q2. 社員は何名か。

A2. 30 名の社員がいる。

Q3. 女性社員は何名か。

A3. 地質部署に 1 名、解析部署に 2 名、総務部に 4 名の女性社員がいる。

Q4. 休日はあるか。

A4. 土日は休みである。祝祭日は休みではないが、将来的には休めるような方向で検討している。

Q5. 退職金はどれくらいか。

A5. 県内企業の退職金は本土企業に比べて低いのが現状である。当社の若手社員が退職を迎えるときには本土並みの退職金を支給できるよう検討している。

Q6. どのような学校に進学すれば良いのか。

A6. 大学に進学するのであれば、工業大学の土木学科がふさわしい。

Q7. 担当業務は何名で遂行するのか。

A7. 地質調査業務はボーリング担当と解析担当であるが、2～3 名で行っている。

5. おわりに

質疑応答の内容からもわかるように、本校の生徒には進路に対する積極的な姿勢が感じられた。また、技術士資格を調べた生徒がいたことに驚いた。

講話終了後に講師にアンケート用紙が配布されたので、今後の希望として講話時間は 40～50 分の時間を与えていただければ他の実験も披露することができ、さらに詳細なことも伝えることができたと思う旨を記載した。後日、生徒から届いた感想文を拝読して、職業人としての思いが伝わったことを嬉しく感じた。

沖縄でもエンジョイ・サイエンス研究委員会のような活動を続けていきたいと思っていたが、移住して 1 年余りでこのような出前授業の機会を与えていただいた関係各位に感謝申し上げたい。

対馬 一 男(つしま かずお)

技術士(建設/総合技術監理部門)

エンジョイ・サイエンス研究委員会
株式会社 沖縄計測

